

草津市版地域再生計画

山田学区

まちづくりプラン



令和2年3月
(令和6年3月改訂版)
山田学区まちづくり協議会
草津市

・・・ 目 次 ・・・

1. まちづくりプランの位置づけ	1
2. 山田学区の状況	2
3. 山田学区のまちづくりの経緯	10
4. 山田学区の課題	11
5. 基本方針と施策メニュー（令和6年3月改訂）	13
6. 推進計画の進行管理	16
7. 山田学区まちづくりプラン策定の体制・経過	17

1. まちづくりプランの位置づけ

(1) まちづくりプランとは

- ・草津市版地域再生計画で掲げた課題の解決や将来ビジョンの具現化に向けて、対象学区ごとに地元でのワークショップ等で検討した事項を反映させ、具体的に取り組む施策などを取りまとめた実行計画にあたります。
- ・実効性の高い計画とするために、短期（4～5年を目安）計画とし、施策の進捗管理を行いながら必要に応じて、見直しなども行いながら、確実に施策の推進を図っていくものです。

(2) まちづくりプランの位置づけ

- ・まちづくりプランの位置づけについては、図-1に示すように上位計画として、「総合計画」および「大津湖南都市計画区域マスタープラン」、「都市計画マスタープラン」があり、関連計画として「健幸都市基本計画」があります。
- ・これらの計画を踏まえながら、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりの実現に向けた「地域再生計画」「立地適正化計画」「地域公共交通網形成計画」の3つの計画が互いに連携して取組みを推進しています。
- ・まちづくりプランは、この中の草津市版地域再生計画の方針に基づき、その他の関連計画と連携しながら、具体的な実行計画を示すものです。

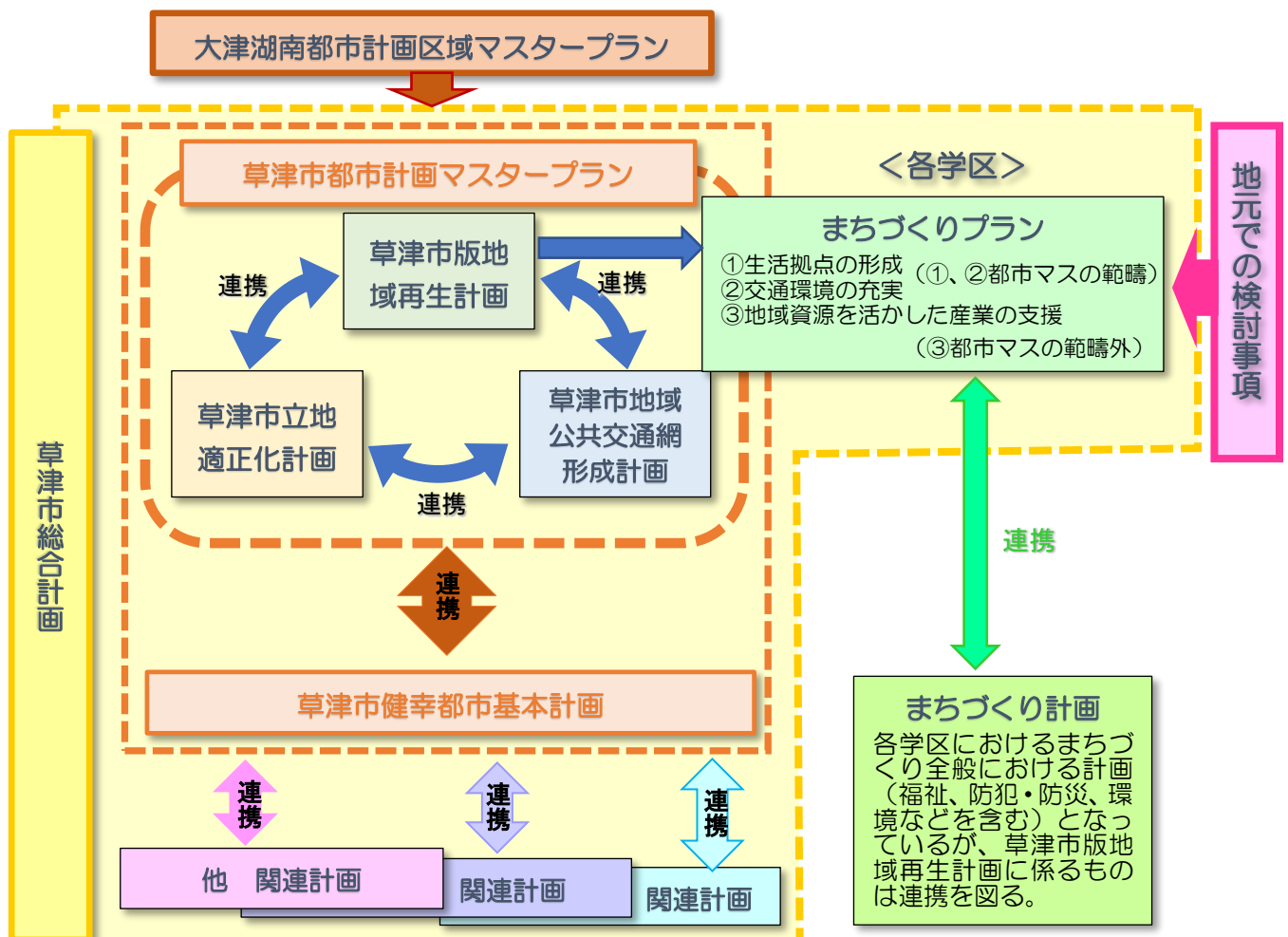


図-1. まちづくりプランの位置づけ

2. 山田学区の状況

(1) エリア・人口・高齢化率の状況

① エリア

・表-1 に示すように、山田学区は面積 632ha（市全体面積の約 13.0%）で、8 割以上が市街化調整区域となっています。図-2 は山田学区の位置を示しています。

表-1. 山田学区の面積割合（市街化区域と市街化調整区域）

	市街化区域		市街化調整区域		合計面積 (ha)
	面積 (ha)	割合	面積 (ha)	割合	
市全体	1,984	40.5%	2,881	59.5%	4,865
山田学区	101	16.0%	530	84.0%	632

※面積は琵琶湖の面積は除いたものとしております。

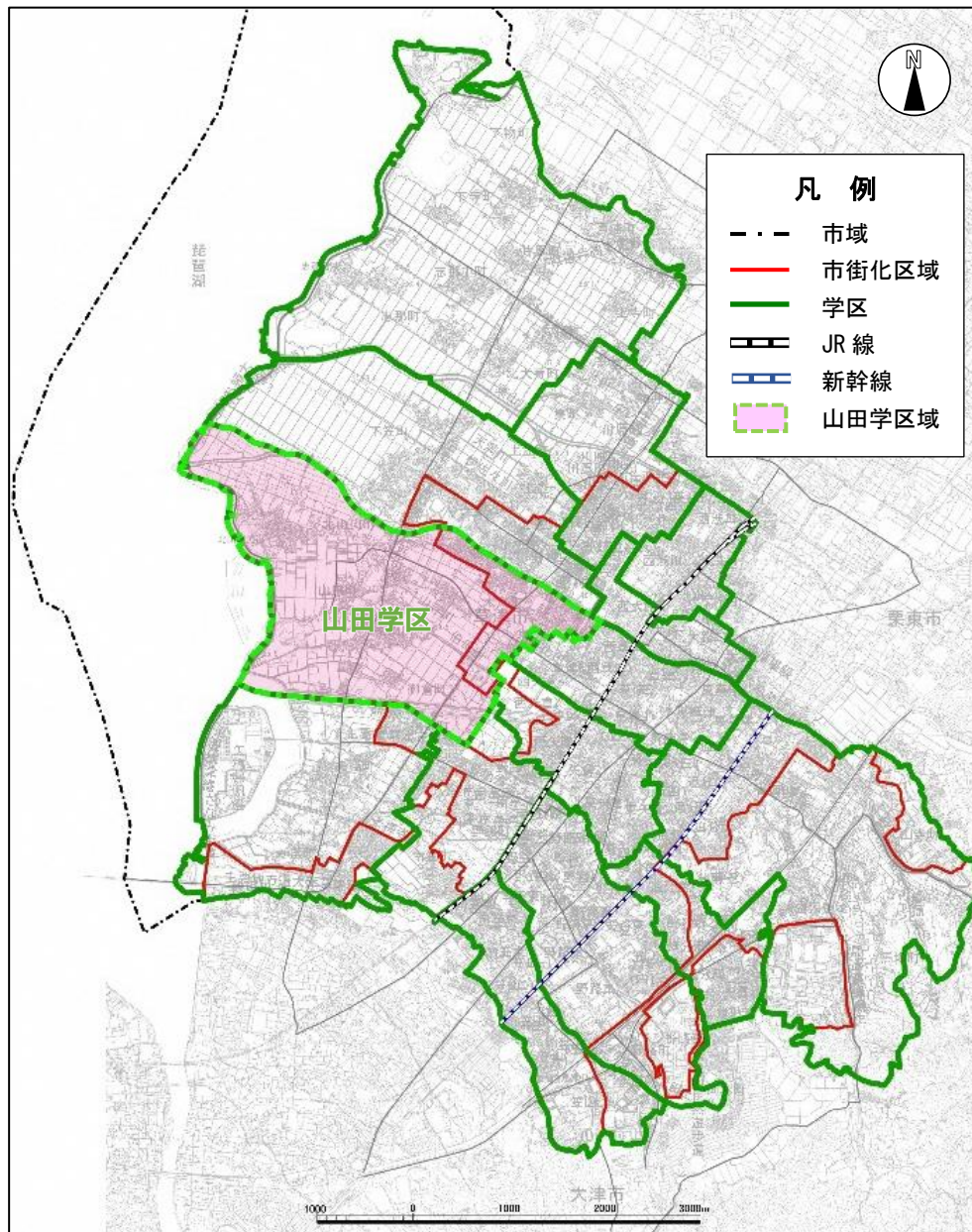


図-2. 山田学区の位置図

②人口

- ・表-2 に示すように、山田学区では既に人口減少が進んでおり、平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で、学区全体では約 500 人、学区内市街化調整区域では約 200 人減少しています。その後も減少が進むと予測されており、平成 27 年の人口は学区全体で約 7,600 人、学区内市街化調整区域では約 4,300 人で、令和 22 年に学区全体で約 4,900 人、学区内市街化調整区域では約 2,800 人となり 3 割以上減少することが見込まれています。
- ・平成 27 年から令和 22 年の人口減少率を比較すると、市街化調整区域全体では 8.2% の減少率である一方、山田学区の市街化調整区域では 34.2% の減少率であることから、市街化調整区域全体と比較しても、人口減少がより一層進むと予測されます。

表-2. 人口の現状と将来予測（平成 27 年、令和 2 年、令和 22 年）

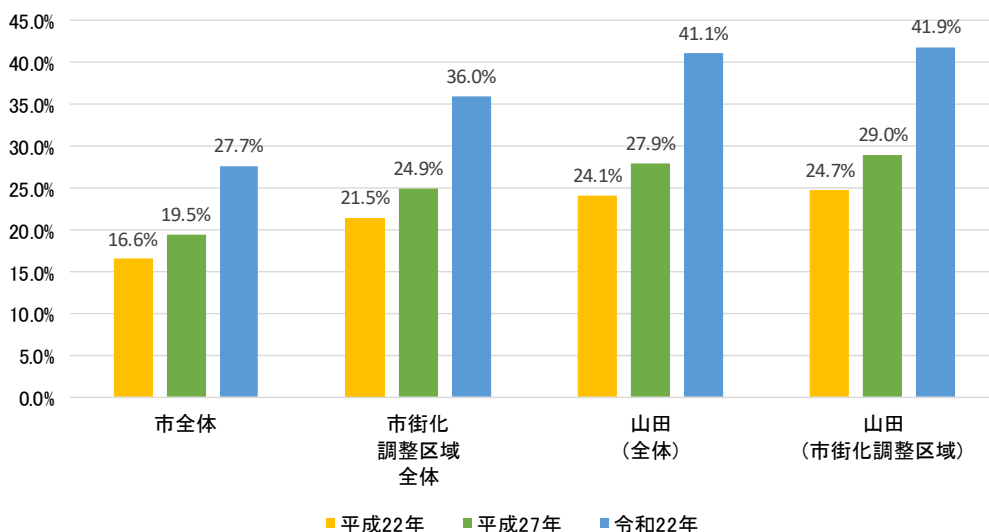
（数字の表記は千人単位としているため、実際の数値とは誤差が生じる）

	平成 27 年	令和 2 年		令和 22 年	
	人口 (千人) (A)	人口 (千人) (B)	増減率 (B/A)	人口 (千人) (C)	増減率 (C/B)
市全体	137.2	143.9	4.9%	145.1	0.8%
市街化調整区域全体	26.5	23.5	▲11.3%	24.3	3.4%
山田学区 (全体)	7.6	7.6	0%	4.9	▲36.1%
山田学区 (市街化調整区域)	4.3	4.1	▲4.7%	2.8	▲31.7%

出典：平成 22 年、平成 27 年は国勢調査、令和 22 年は立地適正化計画基礎調査による推計結果データの積み上げ

③高齢化率

- ・グラフ-1 に示すように、山田学区の高齢化率は平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で、学区全体では約 3.8 ポイント、学区内市街化調整区域では約 4.3 ポイントそれぞれ上昇し、平成 27 年は 27.9% と 29.0% になりました。その後も高齢化が進むことが予測されており、令和 22 年には学区全体、学区内市街化調整区域どちらも 40% を超えることが見込まれています。
- ・市街化調整区域全体と比較すると平成 27 年の状況で 4.1 ポイント高齢化率が高くなっています。



グラフ-1. 高齢化率の現状と将来予測（平成 22 年、平成 27 年、令和 22 年）

出典：平成 22 年、平成 27 年は国勢調査、令和 22 年は立地適正化計画基礎調査による推計結果データの積み上げ

(2) 生活利便施設の状況 (草津市版地域再生計画の再掲)

- 生活利便施設は都市機能施設のうち、国土交通省の「都市構造の評価に関するハンドブック」において生活サービス施設としている、医療施設・高齢者福祉施設・商業施設の3施設を対象としました。

対象施設	定義
医療施設	病院・診療所で内科または外科を有する施設
高齢者福祉施設	通所系施設、訪問系施設、小規模多機能施設
商業施設	1,000㎡以上の大型店舗

- 徒歩圏人口カバー率は、国土交通省の「都市構造の評価に関するハンドブック」において、徒歩圏を一般的な徒歩圏である800m（バス停は誘致距離を考慮し300m）としており、対象施設の位置を中心とした徒歩圏内に存在する人口の総人口に占める割合としています。
- なお、徒歩圏人口カバー率は、町内会別ではなく町丁ごとの整理としており、人口については平成22年国勢調査データを使用しています。

①医療施設

- 図-3に示すように、山田学区における医療施設は、1箇所のみですが、隣接する学区にある徒歩圏内の医療施設は4箇所あり、徒歩圏人口カバー率は学区の市街化区域は100%となっていますが、市街化調整区域では51.9%で、市内で3番目に低い状況となっています。特に、市街地中心部から離れた北山田町では、徒歩圏人口カバー率は50%未満となっています。

施設名称	住所	診療科目
北山田診療所	草津市北山田町 245-1	内科、消化器科、循環器科、小児科

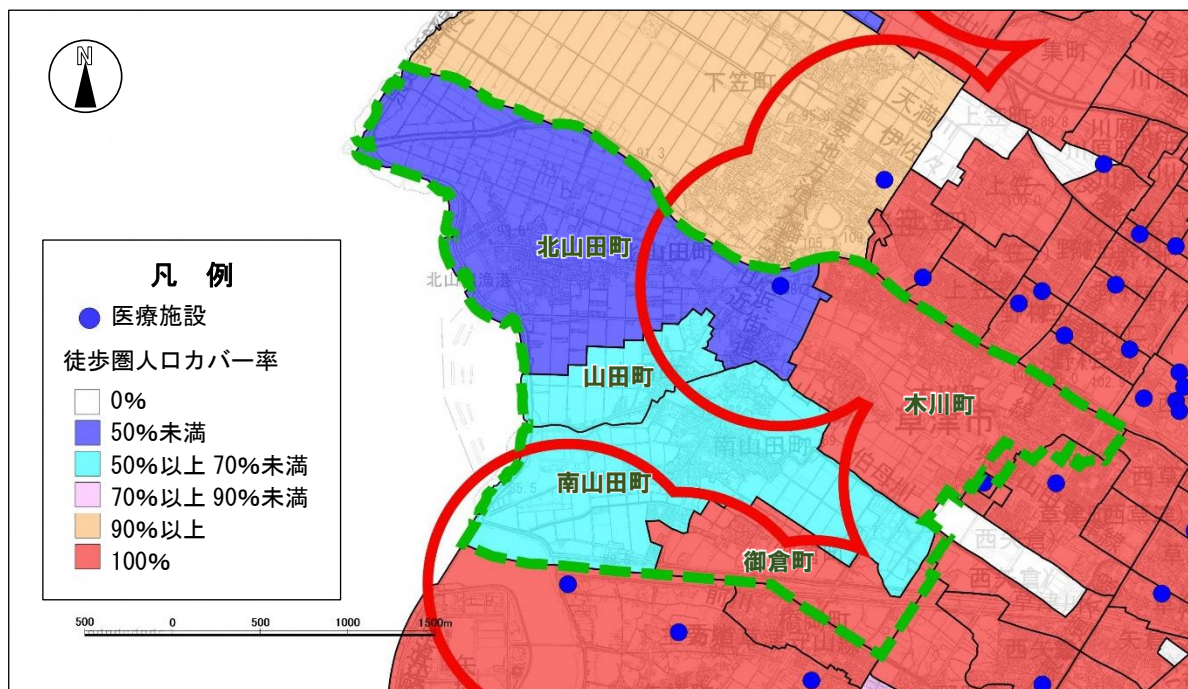


図-3. 徒歩圏人口カバー率 医療施設 (データ整備年次 平成26年)

②高齢者福祉施設

- ・ 図-4 に示すように、山田学区における高齢者福祉施設は、通所系が 6 箇所、多機能系が 1 箇所あり、徒歩圏人口カバー率は 100% となっています。さらに、平成 29 年に特別養護老人ホームがオープンしています。

施設名称		住所
通所系	通所介護事務所やじろべえのハウス	草津市木川町 1607
	デイサービスセンターぬくもり	草津市北山田町 866
	デイサービスセンターほんわか	草津市木川町 890-5
	デイサービスセンターにこやか、はつらつ	草津市木川町 865-12
	デイサービスセンターめろん	草津市御倉町 707
多機能系	小規模多機能型居宅介護事務所こころね	草津市南山田町 960-5

※ は現在運営されておられませんので徒歩圏人口カバー率に影響する可能性があります。

平成 29 年オープンの施設

施設名称		住所
特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム えんゆうの郷	草津市南山田町 761

※平成 29 年オープンのため下記の図-4 には反映していません。

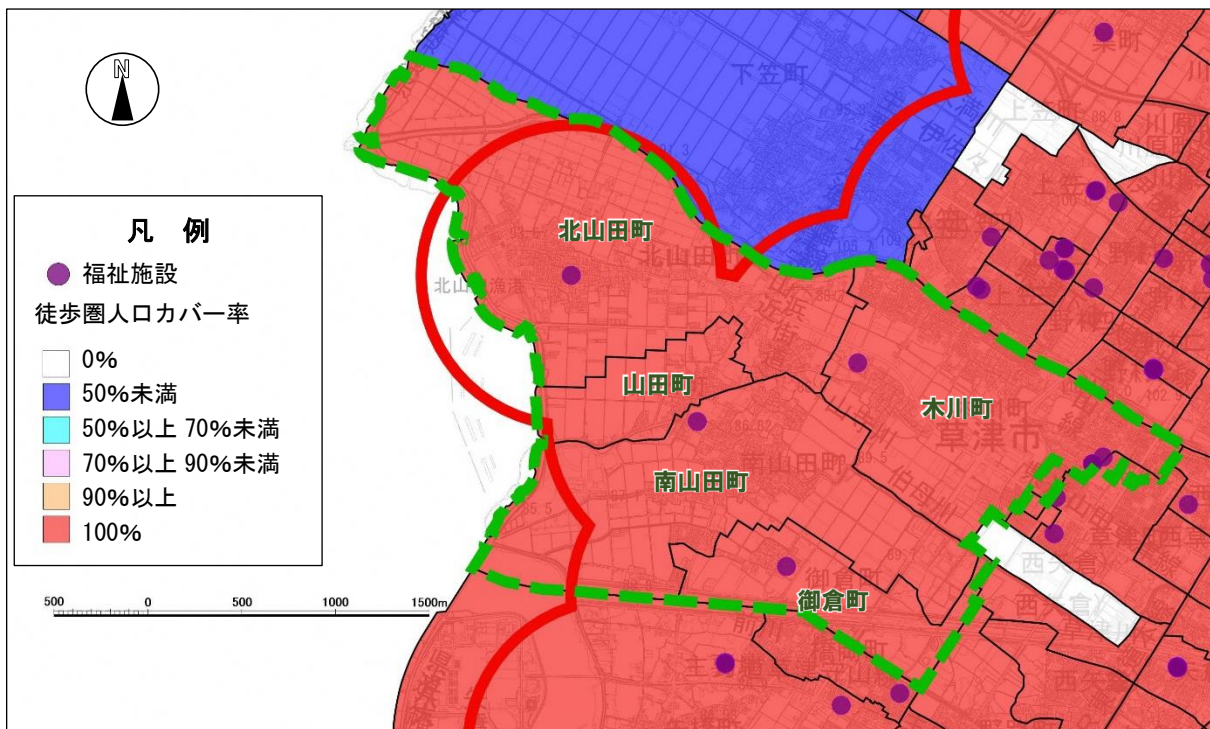


図-4. 徒歩圏人口カバー率 高齢者福祉施設
 (データ整備年次 公共介護施設 平成 27 年 民間介護施設 平成 28 年)

③商業施設

- ・ 図-5 に示すように、山田学区における 1,000 m²以上の商業施設は 5 箇所ありますが、市街地中心部に近い木川町の南東側に施設が固まって立地しているため、徒歩圏人口カバー率は、学区の市街化区域は 87.3% となっていますが、市街化調整区域では 19.2% で、特に北山田町、山田町、御倉町では徒歩圏内に 1,000 m²以上の商業施設が存在しない状況となっています。

施設名称	住所
ホームセンターコーナン草津店	草津市木川町 389
J.JTOWN kinokawa (ドン・キホーテ草津店)	草津市木川町 311-1
ヒマラヤ草津店	草津市木川町 90-1
ケースデンキ草津本店	草津市木川町 302-1
サンミュージックハイパーブックス草津	草津市木川町 72

- ※ は現在、中古車販売店や娯楽施設に変わっており山田学区の大規模商業施設は更に少なくなっております。

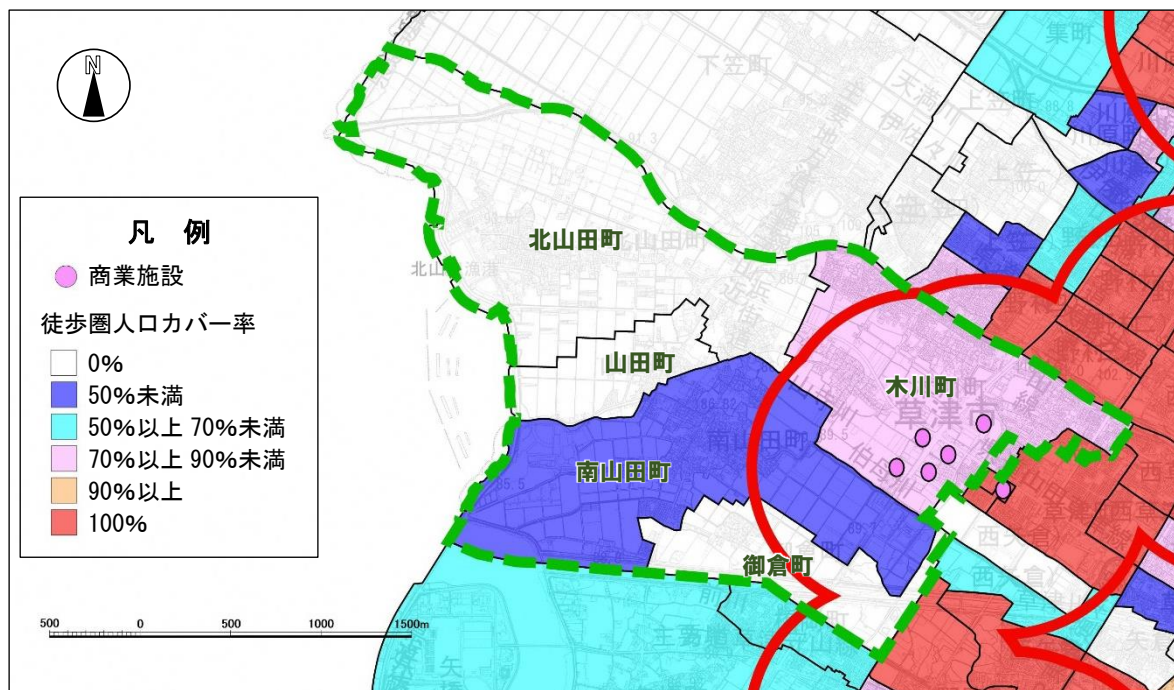


図-5. 徒歩圏人口カバー率 商業施設 (データ整備年次 平成 29 年)

(3) 公共交通の状況

- ・ 図-6 に示すように、山田学区における基幹的公共交通*の徒歩圏人口カバー率は学区の市街化区域では6.5%、市街化調整区域では34.7%で、市内の平均を下回る状況となっています。路線バスが浜街道を運行していることから、南山田町は70%以上80%未満の徒歩圏人口カバー率であるのに対し、浜街道から遠い地域の北山田町、山田町、木川町、御倉町の徒歩圏人口カバー率は60%未満となっています。

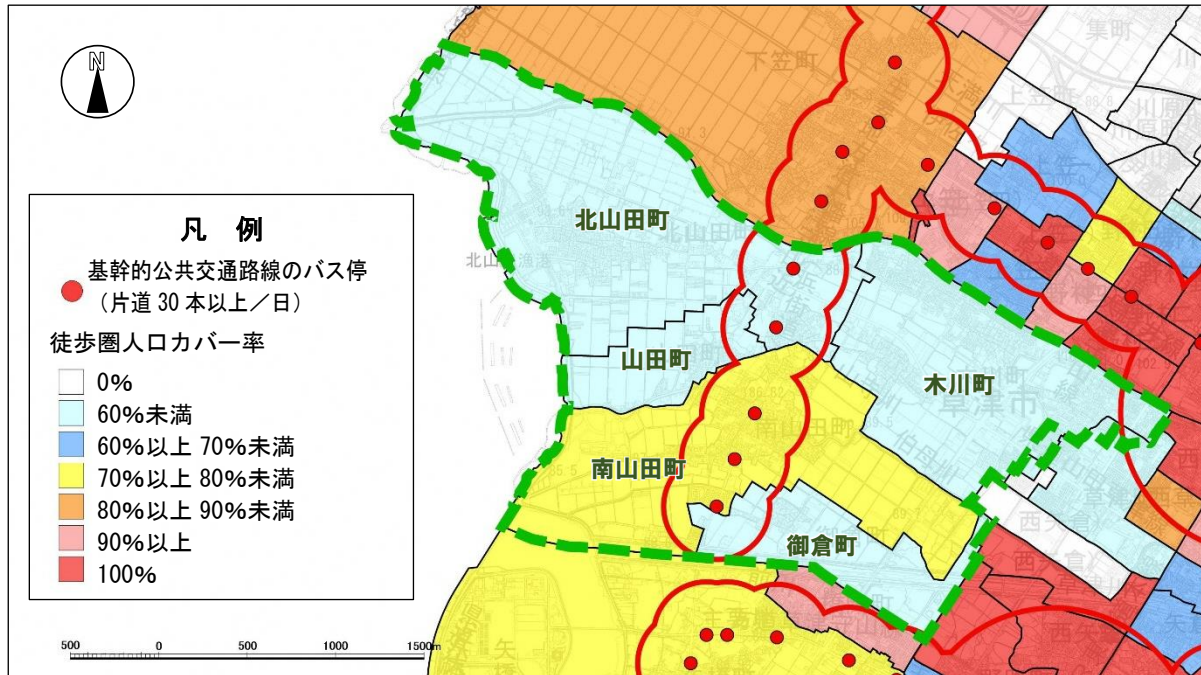


図-6. 徒歩圏人口カバー率 公共交通 (データ整備年次 平成22年)

* 基幹的公共交通は1日に片道30本以上の運行頻度のバスとしています。

(4) 地域資源の状況

《観光》

- 山田学区には、旧草津川の跡地を活用した「草津川跡地公園」が「ai 彩ひろば」として整備されており、「農と人の共生」というテーマのもと、市民活動の場となるにぎわい活動棟やスクールガーデン、広場等があります。

そのほか、ガーデニング用品の販売やグランピング・バーベキューサイトを運営する「GREEN LOFT THE PARK」や、農園カフェ「ストロベリーファクトリー」など、集客力の高い魅力的な商業施設整備が進められています。

また、定期的にマルシェ等のイベントが開催されており、市内外から多くの方が訪れておられます。



にぎわい活動棟



スクールガーデン



公園マルシェの様子

《農水産業》

- 山田学区では、近畿最大級のハウス団地による軟弱野菜の栽培が盛んで、水菜、大根、ネギなどは県内でも主力の生産地となっています。京都などの大都市との近接性を活かし、古くから京漬物を代表する壬生菜、日野菜、大根、かぶらなどの多くも、草津産の野菜で支えてきた歴史があります。現在、草津市ではいくつもの農業組合や個人野菜栽培者が集まって団地を形成し、近畿最大級の施設野菜産地として様々な旬の野菜を出荷しています。近年では、「草津メロン」や「愛彩菜」、「琵琶湖元気アスパラ」などが、草津ブランドとして認証されています。



北山田の近畿最大級のハウス団地

- 北山田漁港では、毎年「草津水産まつり（2019年28回目）」が開催されており、湖魚のつくだ煮や鮎ずし、草津ホンモロコ天ぷらなどの地域の食材販売の他、ニジマスのかみ取り、漁港から漁船に乗ってニゴロブナの稚魚放流体験、魚つり大会などが行われ、多くの方が琵琶湖の恵みに触れることのできるイベントとなっています。



北山田漁港「草津水産まつり」

・山田学区には図-7、表-3 が示すような観光・農水産業の地域資源があります。

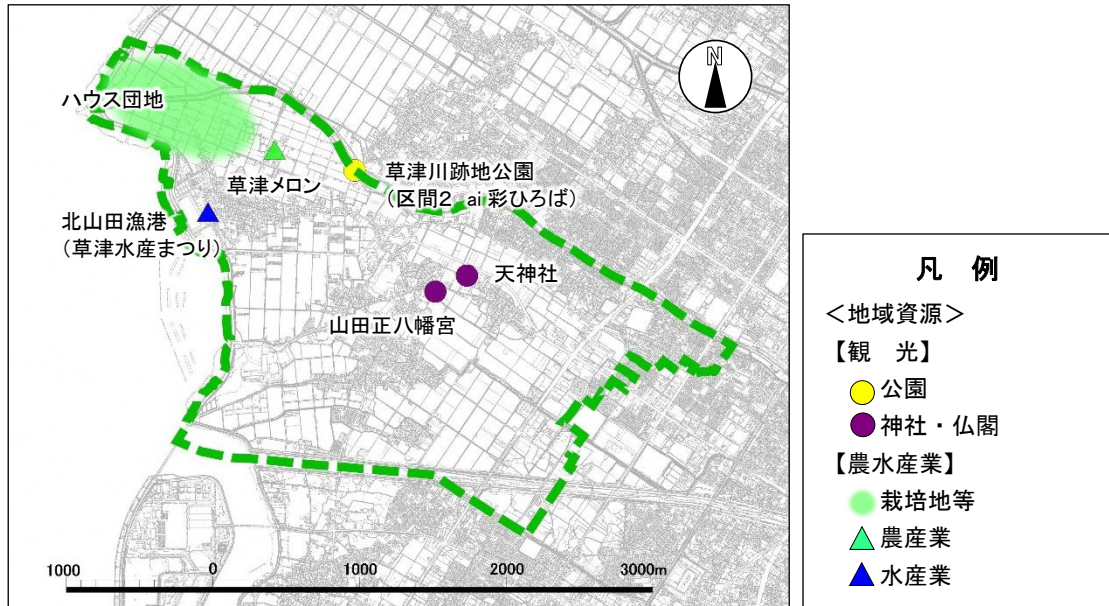


図-7. 山田学区の地域資源分布図 (主なもの)

表-3. 山田学区の地域資源

地域資源			所在地	
区分	名称	概要		
観光	公園	草津川跡地公園 区間 2(ai 彩ひろば)	旧草津川の跡地を活用した「草津川跡地公園」が「ai 彩ひろば」として整備されている。	北山田町 3268 番地 1
		湖岸緑地	琵琶湖周辺の自然保全やレクリエーション利用増進を図るために整備された都市公園。	北山田町
	神社・仏閣等	最明寺	境内には高さ2.8mの五重層塔がある。塔身の笠の軒反りが大きい鎌倉時代の様相を有している。	木川町
		天神社	推古天皇の時代に、膳所城の門を神門として移設したと伝えられる。	木川町
		山田正八幡宮	祭神を応神天皇とし、白鳳四年勧請と伝えられる。	北山田町
		木川薬師堂	西遊寺の飛地の小堂薬師堂には重要文化財の木造薬師如来坐像と木造毘沙門天立像が安置されている。	木川町
		大宮若松神社の古墳	琵琶湖辺の要所を制圧していた首長の墓として、5世紀後半頃に築造されたと考えられる。	南山田町
近代山田港(記念碑)	港跡近くに開設に尽力した杉江善右衛門の記念碑が建つ。	山田町		
農水産業	農業栽培	ハウス団地	見渡す限りのビニールハウス群は近代農業のシンボルであり、草津八大名所の一つとして数えられている。	北山田町
		草津メロン	昭和57年から栽培が始まった草津メロンは、30年を超える栽培技術の蓄積により、高い糖度をもつメロンとなっている。	北山田町
	水産業	北山田漁港	草津市内に2つある漁港のうちのひとつ。毎年開催される草津水産まつりは、多くの人で賑わいを見せている。	北山田町 3130

3. 山田学区のまちづくりの経緯

①まちづくり計画【まちづくり協議会】

- ・山田学区では、平成24年3月24日に「山田学区まちづくり協議会」を設立しました。協議会では、地域住民や各種団体等の協力と協調のもとに、多様化していく地域課題を自らの地域で解決し、住み良いまちづくりに取り組むための行動指針として、まちづくり計画を策定しました。地域の将来像実現に向けて、市や地域の各種団体と協働し、地域再生法などの活用を図りながら「活気あるまちづくり」の実現を目指しています。

地域の将来像 (めざす姿)	～ 笑顔のまち 住みよいまち やまだ ～
まちづくりの基本方針	① 安全・安心で住み続けたいまちづくり
	② 元気で笑顔があふれるまちづくり
	③ ひとにやさしく、ひとが輝くまちづくり
	④ 透明性の高い民主的な協議会の運営

②【明日の山田を考える検討会議】

- ・平成30年度より「明日の山田を考える検討会議」を立ち上げ、山田学区の地域再生について生活拠点や交通環境・地域資源など様々なテーマで議論をしてきました。特に昭和60年に建設され、既に34年が経過している山田学区のまちづくりセンターの老朽化に伴う建替えに関し、今後の人口減少や高齢化社会を見据えた生活拠点としての検討を重ねてきました。令和元年度は月1回以上の会議、勉強会および視察を実施しながら、山田学区の将来を見据えて具体的な施策などについて検討を進めています。

③山田学区まちづくりプラン（本計画）

- ・「明日の山田を考える検討会議」において、草津市版地域再生計画における山田学区の将来ビジョンを切り口として、検討した具体的な施策を提示します。